

埼玉県立松山高等学校 第97回 卒業証書授与式 卒業生代表 答辞

令和五年 三月十四日

解氷の候

よもぎの芽が生き生きと伸び、命の躍動する様子が感じられる
暖かな季節となりました。

本日は、私たち卒業生のために盛大な催しを開いてくださり、
ありがとうございます。生徒を代表し、感謝申し上げます。
ありがとうございます。

答辞としまして、私から3つの話をさせていただきます。

1つ目に卒業生の仲間へ。

私たちは、この松山高校の入学試験を終えた日から普通の
高校生活を送ることは出来なくなってしまいました。
しかし、すべてが無くなったわけではありませんでした。
限られた制約の中だからこそ、お互いをよく知り、深い人間関係を
築き上げることができたと思います。

私の所属する部活の顧問はかつて、「友は宝」とおっしゃって
いました。まさしく、その言葉が卒業生の仲間にも
あてはまるような
そのような日々だったのではないのでしょうか。

しかし、この三年間で多くの苦労や我慢をしなければならなかった人も
多かったと思います。時には、孤独や不安を心に
抱いた人もいたかもしれません。
残念なことに、過去を変えることは出来ません。
この過去を乗り越えるために、私は未来の経験を、出来事を
新たに自分の記憶に上書きすることが大事だと思います。

これから、それぞれの進路に歩みを始めることとなります。
新たなスタートを切る前に仲間に励ましを送り、
育ててくれた保護者の方に感謝を伝え、

卒業生全員で、目の前の未来を切り拓いていきましょう。

2つ目は、在校生の後輩へ。

先程は、思いのこもった送辞をありがとうございました。

いよいよ伝統の襷を渡す時が来ました。

この襷をつなげ、松山高校の将来を引っ張っていくのは在校生のみなさんです。

これから先も、社会の変化による制約や厳しさが時にはあるかもしれません。しかし、大事なことは

やってみなければ得られないことがあるということです。

私たち、卒業生は数多くの困難を先生方や家族、仲間の支えのもと、乗り越えてきました。

3年ぶりの一般公開を実現できた文化祭も、

日々を忘れ、夢中になった球技大会や体育祭、駅伝も

最初は実現が難しいものでした。

この実現の裏には、決して諦めることの無く、

準備を重ね、努力を重ねた事実が

あります。朝早くから、夜遅くまで情熱と熱き志を持って戦ってくれた人たちの努力の結晶でもあります。

これが、松山高校が持つ本来の魅力を復活させることにつながったのです。

来年度以降、夏季制服にポロシャツの

選択肢も加わります。

在校生の皆さん、扉を開き、壁を乗り越え、

挑戦する精神を忘れないでください。

私たち、卒業生の情熱を受け継ぎ、己の技術を高め、さらに高い世界で自分らしく輝いてください。

同じ屋根の下で、学び、同じ時を過ごした在校生のみなさんなら

1人1人が、失敗を恐れず、未来を変えられる、

多くの人に元気を与えるようなそのような、挑戦が出来るはずです。

可能性を信じ、挑み続けてください。
数々の応援、ありがとうございました。

3つ目の話ですが、題は、1人1人が考えてみてください。
新型コロナウイルスによって、無くなってしまったものもあります。
しかし、この社会の変化で明らかになったものもあります。
それは、家族の存在です。
長時間の通勤や、休日でも、私たちを支えるために
働いてくれたり、様々な工夫を凝らして、
私たちの健康に気を遣い、日々の生活を有意義にしてくれた
両親や家族の方がいるはずです。
家族の形は人それぞれです。卒業生は自分の家族について
思いを寄せてみてください。そして、必ず感謝を伝えてください。

また、家族の他にもう1つ、大事な存在を気付いていますか？
それは、私たちを支えてくれた先生方の存在です。
早朝、昼休み、放課後問わず、個性的な松高塾を開いてくださった先生
どんな季節でも正門前で声をかけてくださった先生、
進路の相談に親身に、時には夜遅くまで指導をしてくださった先生、
遠く離れた試合会場にも、付き添い、指導してくださった先生
対面授業やオンライン授業、どちらでも工夫を凝らし、
私たちの学びを支えてくださった先生。
この他にも多くの先生が、私たちを支えるために
その先生独自のことをしてくださいました。
そして、実施できるか分からない中、最後の最後まで
修学旅行の準備を朝早くから夜遅くまで、とてつもない時間をかけて
私たちの高校生活で一度きりの大切な思い出を守り抜いてくださった
先生がいらっしゃいました。
私たち、生徒はたくさん注意を受け、時には迷惑を
おかけしたこともありました。それでも、
先生方は、私たちを常に見守り、支えてくださいました。
先生たちの思いと、優しさは忘れません。
私たちを最後の最後まで、助け、支えて頂いて
本当にありがとうございました。

社会情勢のめまぐるしく変わる 21 世紀。

この未知の病による危機により、私たちは諦めざるを得なかったことや出来なかったことがありました。

けれど、この社会の変化は今の社会を見つめ直すきっかけにもなりつつあります。テレワークや在宅勤務、オンライン授業など、様々な変化が起きました。

SNS やソーシャルネットワークなどの普及も進みました。

一方で、便利なものが普及する中、直接のコミュニケーションの持つ力が見直されています。この直接の会話を持つことは、ありのままの人間を伝え、お互いを知り、その上で尊重し合うことができるかとされています。

正しく、相手を認めることができず、支え合うことができなくなると何が起こるでしょうか。

それは、争いです。その先には戦争があります。この瞬間も、世界各地で紛争により、被害を受けている人がいます。

世界中の人々が求める平和は、個人それぞれの持つ個性を尊重し、お互いを助け合う精神が必要です。

だからこそ、卒業を迎え、それぞれの進路に進む私たちは、一つのものさしで物事を捉えるのではなく、様々な視点から本質を理解し、自分の意見を持つことが求められています。外見や、立場などで人を決め付けたり、偏った考えを人に押し付けることは、あってはならないと私は思います。

この先の未来で、理不尽なことや、乗り越えなければならぬことがきっとたくさん出会うことでしょう。

それでも、望みを捨てず、強き意志がある限り、道は開きます。

世の中はすべてつながっていて、生きている限り、人生に意味の無いことは起こりません。

失敗しても、その失敗を称え合える、支え合える志を、広き心を持ち、優しさを言い合える仲間を持ってください。

卒業生の仲間たち、この今日という日を終える前に自分にしか出来ないものを、仲間に、後輩たちに、先生方に家族の方に伝えてください。自分の存在を大事にしてこれからも頑張っていきましょう。

在校生の皆さん、先輩たちの姿を、背中を
最後の一瞬まで目に焼き付け、その志を必ず受け継いでください。
そして、いつの日か、卒業生を追い越して、
卒業生の悔しさを晴らしてきてください。

私たち、313名は、仲間と共に、感謝と自信を持ち、
この松山高校を卒業します。私たちを支え、成長させてくれたすべての
方々、感謝の言葉で伝えることは出来ないほど、感謝でいっぱいです。
誠にありがとうございました。これからも頑張ります。

結びに、埼玉県立松山高等学校の末永い発展と、成長を、
また本日ご臨席を賜りました皆様の幸福と平和を御祈念申し上げますと共に、
世界平和への希望を捧げ
卒業生代表の挨拶とさせていただきます。

松高生に栄光あれ。